

2019年12月

# 県内企業の景況意識調査

(第171回)

共同調査

大銀経済経営研究所

大分信用金庫

大分県産業創造機構

\* 2019年 10～12月期〈Ⅳ期〉の実績見込み

\* 2020年 1～3月期〈Ⅰ期〉の見通し

## 運輸業とサービス業を中心に改善

今期（2019年10～12月期〈Ⅳ期〉）の業況判断BSIは、前期比4.0ポイント上昇の▲15.8となり、2期ぶりに改善した。業種別のBSIは、『卸・小売業』『運輸業』『サービス業』の3業種で改善し、『建設業』『製造業』の2業種で悪化した。

10月にラグビーワールドカップの試合が大分市で開催され、運輸業とサービス業における景況感の大幅な改善につながったと考えられる。一方、韓国人観光客が減少していることや、小売業・製造業において消費増税の駆け込み需要に伴う反動減の影響がみられることもあり、業況判断BSIの改善は小幅にとどまった。

来期（2020年1～3月期〈Ⅰ期〉）の業況判断BSIは、今期比2.3ポイント上昇の▲13.5と改善する見通しである。業種別のBSIは、『製造業』『卸・小売業』『運輸業』の3業種で改善する見通し。小売業では消費増税の駆け込み需要の反動減が一巡することから改善が見込まれている。

\* 2019年 10～12月期〈Ⅳ期〉の実績見込み

製 造 業……………2期ぶりに悪化

卸・小売業……………卸売業は改善するも、小売業は悪化

建 設 業……………2期ぶりに悪化

サービス業……………2期ぶりに改善

## 運輸業とサービス業を中心に改善

### ◎業況判断

**【今期】** 今期（2019年10～12月期〈Ⅳ期〉）の業況判断BSIは、前期比4.0ポイント上昇の▲15.8となり、2期ぶりに改善した。

BSIの内訳をみると、「よくなった」と回答した企業は前期比3.6ポイント増の10.7%、「悪くなった」は同0.4ポイント減の26.5%、「変わらない」は同3.2ポイント減の62.8%となった。

業種別のBSIは、『卸・小売業』『運輸業』『サービス業』の3業種で改善し、『建設業』『製造業』の2業種で悪化した。

10月にラグビーワールドカップの試合が大分市で開催され、運輸業とサービス業における景況感の大幅な改善につながったと考えられる。一方、韓国人観光客が減少していることや、小売業・製造業において消費増税の駆け込み需要に伴う反動減の影響がみられることもあり、業況判断BSIの改善は小幅にとどまった。

**【来期】** 来期（2020年1～3月期〈Ⅰ期〉）の業況判断BSIは、今期比2.3ポイント上昇の▲13.5と改善する見通しである。

BSIの内訳をみると、「よくなる」と回答した企業は今期比0.4ポイント減の10.3%、「悪くなる」は同2.7ポイント減の23.8%、「変わらない」は同3.1ポイント増の65.9%となる見通しである。

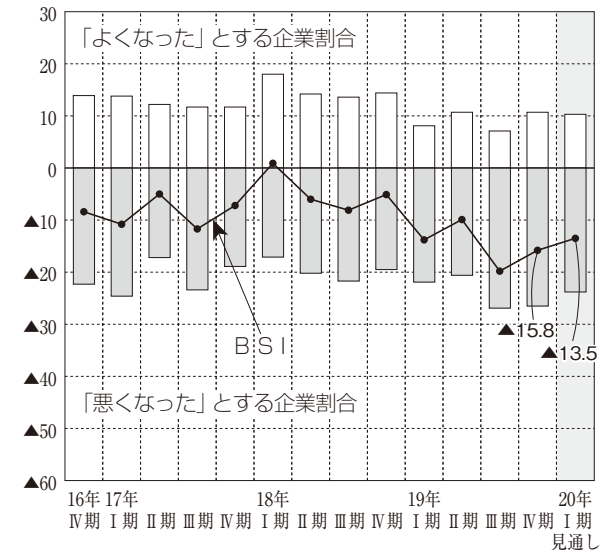
業種別のBSIは、『製造業』『卸・小売業』『運輸業』の3業種で改善する見通し。小売業では消費増税の駆け込み需要の反動減が一巡することから改善が見込まれている。

### ◎売上高と収益

**【今期】** 売上高BSIは前期比5.9ポイント上昇の▲8.8、収益BSIは同2.0ポイント上昇の▲15.4とともに改善した。業種別にみると、売上高BSIは『製造業』『卸・小売業』『金融・不動産業』『サービス業』の4業種で改善し、『建設業』『運輸業』の2業種で悪化した。収益BSIは『製造業』『卸・小売業』『金融・不動産業』『サービス業』の4業種で改善し、『建設業』『運輸業』の2業種で悪化した。

**【来期】** 売上高BSIは今期比3.0ポイント低下の▲11.8、収益BSIは今期と同水準の▲15.4となる見通しである。業種別にみると、売上高BSIは『建設業』『運輸業』を除く4業種で悪化する見通しであり、収益BSIは『金融・不動産業』『運輸業』を除く4業種で悪化する見通しである。

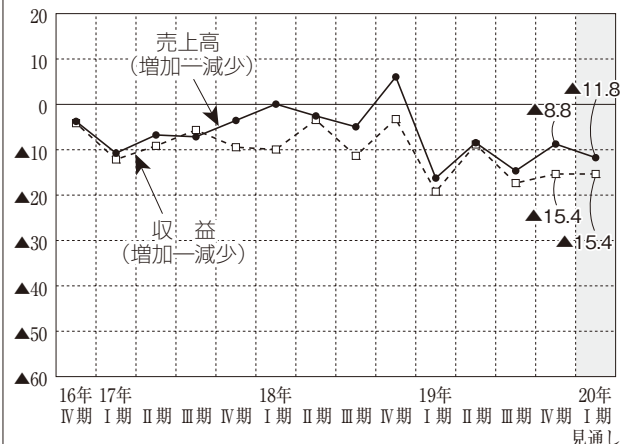
業況判断（BSI）



業況判断指数内訳（BSI）

	2019年Ⅱ期	2019年Ⅲ期	2019年Ⅳ期	2020年Ⅰ期見通し
建設業	0.0	8.7	0.0	▲14.8
製造業	▲27.6	▲17.2	▲22.1	▲11.8
卸・小売業	▲6.7	▲26.6	▲25.9	▲22.2
金融・不動産業	0.0	▲12.5	▲12.5	▲12.5
運輸業	0.0	▲12.5	5.6	22.2
サービス業	5.9	▲38.9	▲12.9	▲21.1
全産業	▲9.9	▲19.8	▲15.8	▲13.5

売上高と収益（BSI）



### ◎所定外労働時間と雇用者数の現状

【今期】所定外労働時間 BSI は前期比1.8ポイント上昇の▲2.8となった。業種別にみると、『卸・小売業』『金融・不動産業』『サービス業』の3業種で上昇した一方、『建設業』『製造業』『運輸業』の3業種で低下するなど業種ごとで差がみられた。

雇用者数の現状 BSI は同4.5ポイント低下の▲38.4となった。業種別にみると、『建設業』『製造業』『卸・小売業』の3業種で低下した。

【来期】所定外労働時間 BSI は、今期比2.3ポイント低下の▲5.1となる見通しである。

### ◎資金繰りと金融機関からの借り入れ

【今期】資金繰り BSI は、前期比2.0ポイント上昇の+0.9となった。業種別にみると、『卸・小売業』『金融・不動産業』『運輸業』『サービス業』の4業種で改善した。

借り入れ BSI は、同2.6ポイント低下の▲5.3となった。

【来期】資金繰り BSI は、今期比5.1ポイント低下の▲4.2となる見通しである。業種別にみると、『建設業』『金融・不動産業』『サービス業』の3業種で低下する見通しである。

借り入れ BSI は、同3.8ポイント低下の▲9.1となる見通しである。

### ◎設備投資実施割合

【今期】実施企業の割合は、前期比1.7ポイント減の36.7%となった。業種別にみると、『建設業』『製造業』『運輸業』『サービス業』の4業種で減少した。

実施予定企業の投資目的をみると、「補修・更新」が55.3%と最も多く、「生産能力の拡大・売上増加」が22.4%、「合理化・省力化」が11.8%で続く。

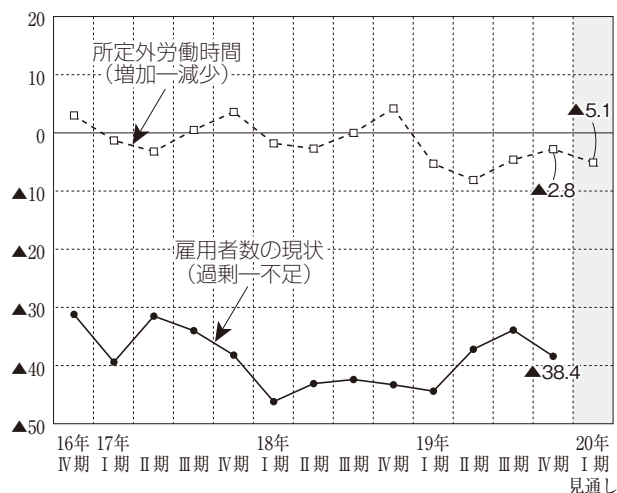
【来期】実施予定企業の割合は、今期比0.4ポイント減の36.3%となる見通しである。業種別にみると、『建設業』『卸・小売業』『金融・不動産業』の3業種で減少する見通しである。

実施予定企業の投資目的をみると、「補修・更新」が57.3%と最も多く、「生産能力の拡大・売上増加」が21.3%、「合理化・省力化」が10.7%、「新製品生産」が4.0%で続く。

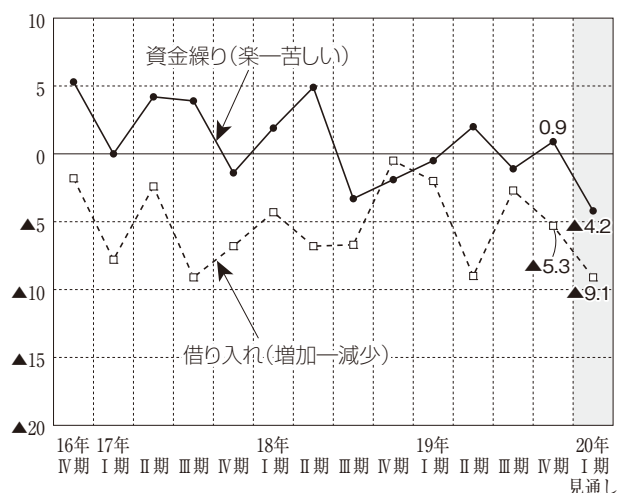
### ◎「今年の冬季ボーナス支給予定額」について

今回の調査において、「今年の冬季ボーナスの支給予定額」について尋ねたところ、「前年の冬季と同額」が52.9%と最も多く、「わからない」が14.8%、「前年の冬季より増額する」「前年の冬季より減額する」がともに11.0%、「ボーナスの支給予定はない」が10.5%となった。

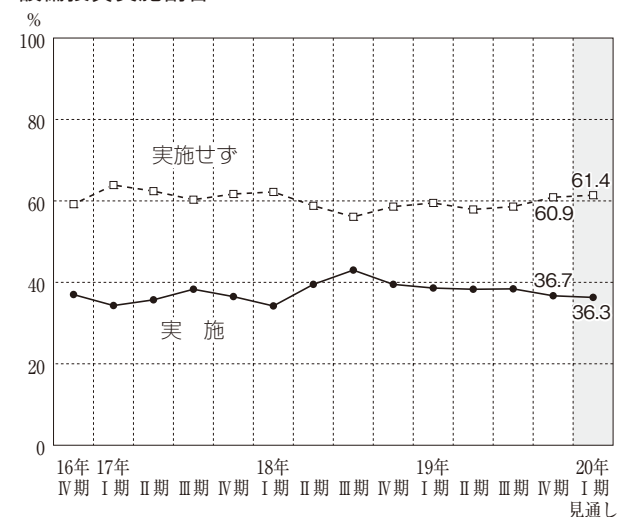
所定外労働時間と雇用者数の現状（BSI）



資金繰りと金融機関からの借り入れ（BSI）



設備投資実施割合



## 2期ぶりに悪化

### ◎業況判断

**【今期】** 業況判断 BSI は、前期比4.9ポイント低下の▲22.1と2期ぶりに悪化し、マイナス水準が継続している。

内訳をみると、「よくなった」と回答した企業は前期比2.1ポイント減の8.8%、「悪くなった」は同2.8ポイント増の30.9%、「変わらない」は同0.6ポイント減の60.3%となった。

業種別にみると、前期よりも改善した業種は「鉄・非鉄・金属」のみであった。一方、悪化した業種は「化学・石油」「機械」「食料品」「木材・家具」の4業種であった。また、「繊維・衣服」「パルプ・紙」「印刷・出版」などの5業種については前期と同水準であった。

業況判断 BSI は前期に下げ止まりの兆しがみられたが、今期は消費増税の駆け込み需要に伴う反動減により自動車関連や木材・家具の受注が減少したことで、再び悪化に転じることとなった。

**【来期】** 業況判断 BSI は▲11.8と、今期比10.3ポイント上昇する見通しである。

内訳をみると、「よくなる」と回答した企業は今期比1.5ポイント増の10.3%、「悪くなる」は今期比8.8ポイント減の22.1%、「変わらない」は今期比7.3ポイント増の67.6%となる見通しである。

業種別にみると、今期よりも改善見通しは「化学・石油」「機械」「食料品」の3業種。悪化見通しの業種はない。また、「鉄・非鉄・金属」「繊維・衣服」「木材・家具」などの7業種については前期と同水準の見込み。

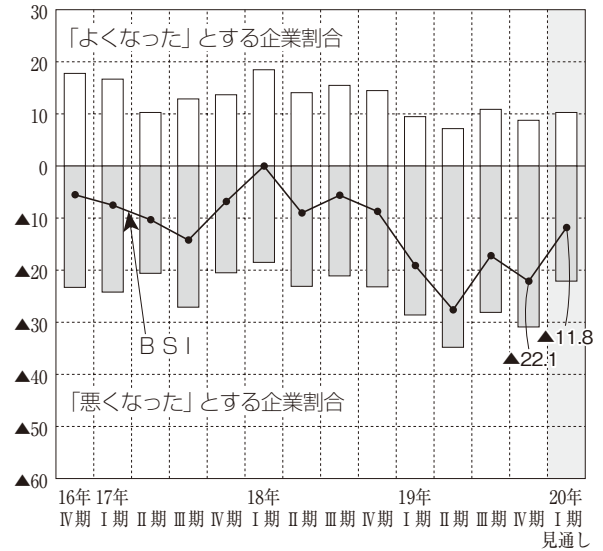
来期は悪化見通しの業種がなく、全体の景況感が改善すると予想される。一方、現状と同水準を予想する業種が過半を占め、景気動向について様子見という状況もうかがえる。業界をとりまく状況を見ると、米中貿易摩擦の激化など海外情勢を巡るリスク要因があり、今後も動向を注視する必要がある。

### ◎売上高と生産高

**【今期】** 売上高 BSI は前期比8.3ポイント上昇の▲5.9、生産高 BSI は同17.8ポイント上昇の▲1.5とともに改善した。

**【来期】** 売上高 BSI は今期比12.3ポイント低下の▲18.2、生産高 BSI は同7.8ポイント低下の▲9.3と、売上高 BSI、生産高 BSI とともに悪化する見通しである。

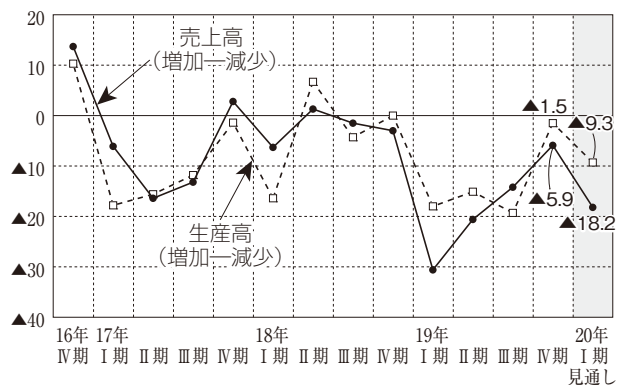
業況判断 ( B S I )



業況判断指数内訳 ( B S I )

	2019年 Ⅱ期	2019年 Ⅲ期	2019年 Ⅳ期	2020年 Ⅰ期見通し
化学・石油	0.0	0.0	▲ 16.7	0.0
鉄・非鉄・金属	▲ 22.2	▲ 33.3	▲ 22.2	▲ 22.2
機 械	▲ 27.7	▲ 25.0	▲ 30.0	▲ 10.0
食 料 品	▲ 9.1	▲ 14.3	▲ 16.7	0.0
繊維・衣服	▲100.0	▲100.0	▲100.0	▲100.0
木材・家具	▲ 75.0	▲ 16.6	▲ 60.0	▲ 60.0
パルプ・紙	▲100.0	0.0	0.0	0.0
印刷・出版	▲ 50.0	▲ 20.0	▲ 20.0	▲ 20.0
窯業・土石	0.0	0.0	0.0	0.0
ゴム・革・その他	0.0	16.6	16.6	16.6
製 造 業	▲ 27.6	▲ 17.2	▲ 22.1	▲ 11.8

売上高と生産高 ( B S I )



### ◎収益・原材料仕入価格・製品販売価格

**【今期】** 収益 BSI は、前期比7.1ポイント上昇の▲11.9と上昇した。原材料仕入価格 BSI は同1.9ポイント上昇の+27.7、製品販売価格 BSI は同3.5ポイント低下の+4.6となった。

**【来期】** 収益 BSI は、今期比6.0ポイント低下の▲17.9と悪化する見通しである。原材料仕入価格 BSI は、同4.6ポイント低下の+23.1、製品販売価格 BSI は同7.7ポイント低下の▲3.1となる見通しである。

### ◎受注残高と製品在庫

**【今期】** 受注残高 BSI は、前期比19.4ポイント上昇の▲1.5となった。製品在庫 BSI は同3.1ポイント低下の▲3.1となった。

**【来期】** 受注残高 BSI は、今期比3.1ポイント低下の▲4.6、製品在庫 BSI は同1.5ポイント上昇の▲1.6となる見通しである。

### ◎設備投資実施割合

**【今期】** 実施企業の割合は、前期比1.3ポイント減の45.6%となった。投資目的をみると、「補修・更新」が38.7%と最も多くなっている。続いて、「生産能力の拡大・売上増加」が25.8%、「合理化・省力化」が22.6%となっている。

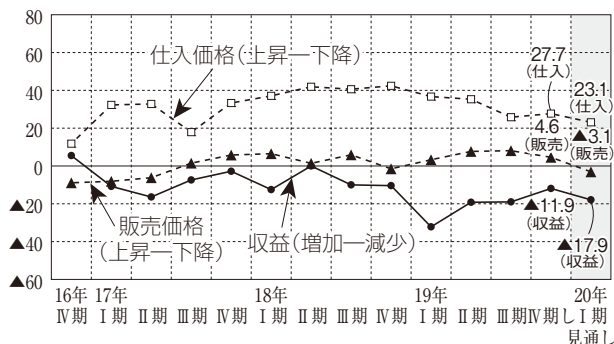
前期と比べ「生産能力の拡大・売上増加」「合理化・省力化」目的の割合は上昇したものの、「補修・更新」目的の割合は低下している。前期と同じ傾向にあり、全体の設備投資割合は若干下がっているものの、前向きな投資の割合が高くなっている。

**【来期】** 実施予定企業の割合は、今期比2.9ポイント増の48.5%となる見通しである。投資目的をみると、「補修・更新」が40.6%と最も多くなっている。続いて、「生産能力の拡大・売上増加」が25.0%、「合理化・省力化」が15.6%となっている。

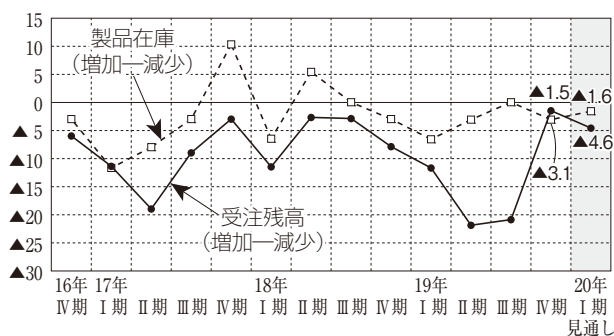
### ◎経営上の問題点

経営上の問題点については、最も多いのが「売上不振」で40.9%となり、前期から割合が上昇し、引き続き企業の多くが売上の伸び悩みを課題としている。続いて、「人材不足」が16.7%、「競争激化」が12.1%、「人手不足」が10.6%となっている。

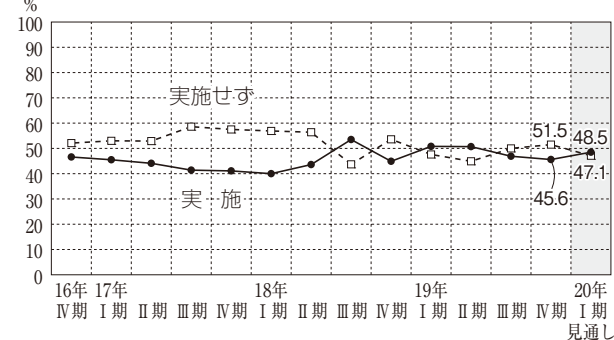
収益・原材料仕入価格・製品販売価格（BSI）



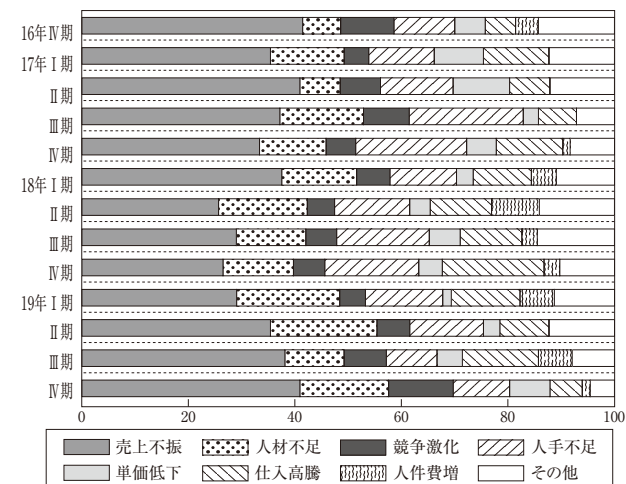
受注残高と製品在庫（BSI）



設備投資実施割合



経営上の問題点 (%)



## 卸売業は改善するも、小売業は悪化

## ◎業況判断

【今期】『卸売業』の業況判断BSIは、前期比12.5ポイント上昇の▲12.5、『小売業』の業況判断BSIは同8.7ポイント低下の▲36.7となり、卸売業は改善、小売業は悪化した。10月1日より消費税が増税となったことから、増税後に買い控えが発生し、小売業では影響を受けた。ただし、前回増税時（2014年4月）と比較すると増税前の駆け込み消費、増税後の買い控えはともに小さい動きとなっている。

BSIの内訳をみると、『卸売業』では「よくなった」と回答した企業は前期と同水準の8.3%、「悪くなった」は前期比12.5ポイント減の20.8%、「変わらない」は同12.5ポイント増の70.8%だった。『小売業』では、「よくなった」と回答した企業は前期比0.7ポイント減の3.3%、「悪くなった」は同8.0ポイント増の40.0%、「変わらない」は同7.3ポイント減の56.7%だった。

【来期】『卸売業』の業況判断BSIは、今期比25.0ポイント低下の▲37.5、『小売業』の業況判断BSIは、今期比26.7ポイント上昇の▲10.0と、卸売業は悪化、小売業は改善する見通しとなった。小売業では、駆け込み需要の反動減が一巡することで業況判断BSIの改善が見込まれるが、一部では消費増税による消費マインドの落ち込みを不安視する声もあった。

## ◎卸売業：売上高と商品在庫

【今期】売上高BSIは、前期比16.6ポイント上昇の▲4.2と改善し、商品在庫BSIは、同16.9ポイント低下の▲4.4となった。

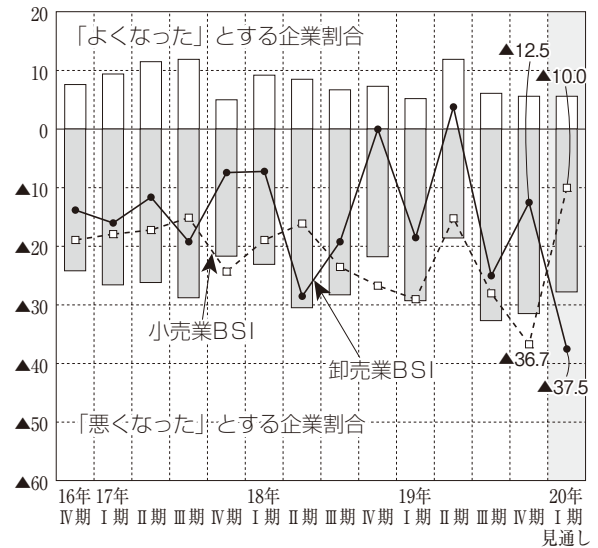
【来期】売上高BSIは、今期比17.6ポイント低下の▲21.8と悪化する見通しである。また、商品在庫BSIは、同8.7ポイント低下の▲13.1となる見通し。

## ◎卸売業：収益・商品仕入価格・商品販売価格

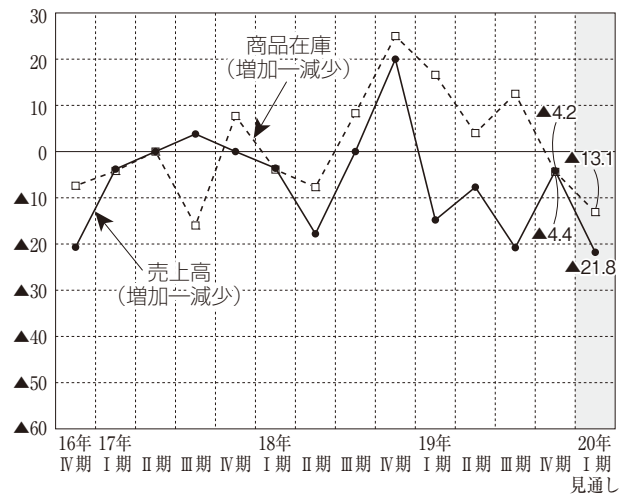
【今期】収益BSIは、前期比0.9ポイント上昇の▲20.8となった。また、商品仕入価格BSIは同5.5ポイント上昇の+30.5、商品販売価格BSIは同17.4ポイント上昇の+13.1となった。

【来期】収益BSIは、今期比16.7ポイント低下の▲37.5と悪化する見通しである。また、商品仕入価格BSIは同4.4ポイント低下の+26.1、商品販売価格BSIは同4.4ポイント低下の+8.7となる見通しである。

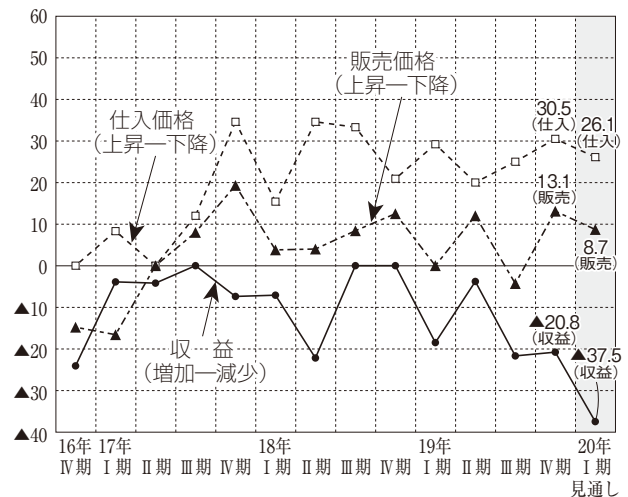
業況判断（BSI）



〔卸売業〕売上高と商品在庫（BSI）



〔卸売業〕収益・商品仕入価格・商品販売価格（BSI）



◎小売業：売上高と商品在庫

【今期】売上高 BSI は、前期比0.7ポイント低下の▲16.7となった。商品在庫 BSI は、同2.0ポイント上昇の▲10.0となった。

【来期】売上高 BSI は、今期比10.0ポイント上昇の▲6.7と改善する見通し。また、商品在庫 BSI は、同3.3ポイント上昇の▲6.7となる見通しである。

◎小売業：収益・商品仕入価格・商品販売価格

【今期】収益 BSI は、前期比4.0ポイント上昇の▲20.0と改善した。商品仕入価格 BSI は同14.6ポイント上昇の+26.6、商品販売価格 BSI は同10.0ポイント上昇の+10.0となった。

【来期】収益 BSI は、今期比10.0ポイント上昇の▲10.0と改善する見通しである。商品仕入価格 BSI は同3.3ポイント低下の+23.3、商品販売価格 BSI は同3.3ポイント低下の+6.7となる見通しである。

◎設備投資実施割合

【今期】実施企業の割合は、前期比3.7ポイント増の24.1%となった。業種別では、『卸売業』が前期比12.5ポイント増の29.2%となり、『小売業』が同4.0ポイント減の20.0%となっている。

設備投資の内容をみると、『卸売業』では「補修・更新」が57.1%と最も高く、次いで「合理化・省力化」が28.6%、「事業転換・経営多角化」が14.3%となっている。一方、『小売業』では「補修・更新」が83.3%、「生産能力の拡大・売上増加」が16.7%となっている。

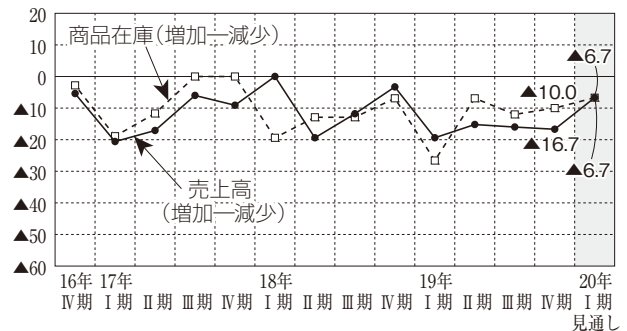
【来期】実施予定企業の割合は、今期比3.7ポイント減の20.4%となる見込みである。業種別では、『卸売業』が4.2ポイント減の25.0%、『小売業』は同3.3ポイント減の16.7%となる見通しである。

設備投資の内容をみると、『卸売業』は「補修・更新」が66.7%、「生産能力の拡大・売上増加」「合理化・省力化」がともに16.7%であった。『小売業』では、「補修・更新」が80.0%、「事業転換・経営多角化」が20.0%となっている。

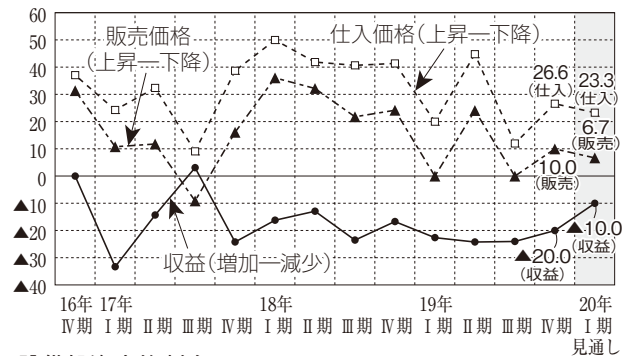
◎経営上の問題点

経営上の問題点については、「売上不振」が47.2%と最も高く、「人手不足」が15.1%、「競争激化」「人材不足」がともに11.3%、「人件費増」が7.5%、「原材料仕入価格高騰」が3.8%と続いた。

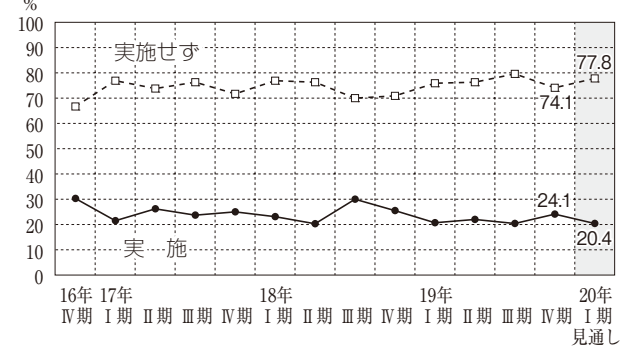
〔小売業〕売上高と商品在庫（BSI）



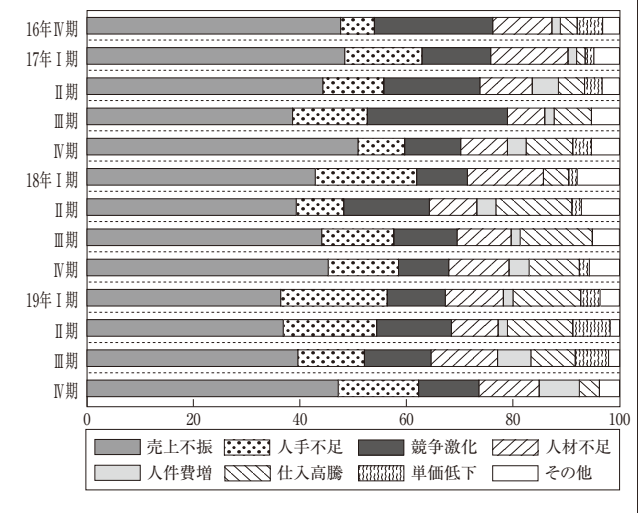
〔小売業〕収益・商品仕入価格・商品販売価格（BSI）



設備投資実施割合



経営上の問題点 (%)



## 2期ぶりに悪化

### ◎業況判断

**【今期】** 業況判断 BSI は、前期比8.7ポイント低下の±0.0と2期ぶりに悪化した。前回調査における2019年Ⅳ期の見通し(+4.2)と比較すると4.2ポイントの下方修正となった。

BSIの内訳をみると、「よくなった」と回答した企業は前期比10.0ポイント減の7.4%、「悪くなった」は同1.3ポイント減の7.4%、「変わらない」は同11.3ポイント増の85.2%となった。

今期の業況を「変わらない」とする回答が8割超を占めるものの、後述のとおり売上高 BSI、収益 BSI はマイナス水準となるなど悪化しており、業況判断 BSI の低下につながったと考えられる。

**【来期】** 業況判断 BSI は、今期比14.8ポイント低下の▲14.8と、悪化する見通しである。

### ◎売上高と収益

**【今期】** 売上高 BSI は前期比28.3ポイント低下の▲7.4、収益 BSI も同36.1ポイント低下の▲11.1とともに悪化した。なお、前回調査における2019年Ⅳ期の見通しでは、売上高 BSI、収益 BSI ともに低下するもののプラス水準に留まると想定しており、どちらも想定を超える下方修正となった。

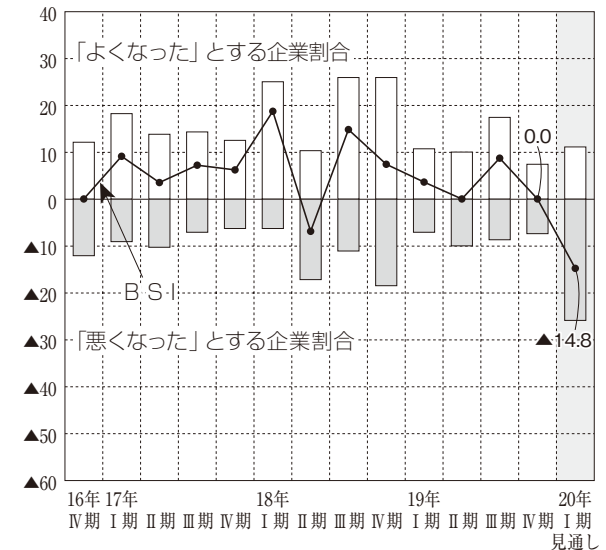
**【来期】** 売上高 BSI は今期比14.8ポイント上昇の+7.4と改善見通しである一方、収益 BSI は同3.7ポイント低下の▲3.7と悪化が続く見通しである。

### ◎所定外労働時間と雇用者数の現状

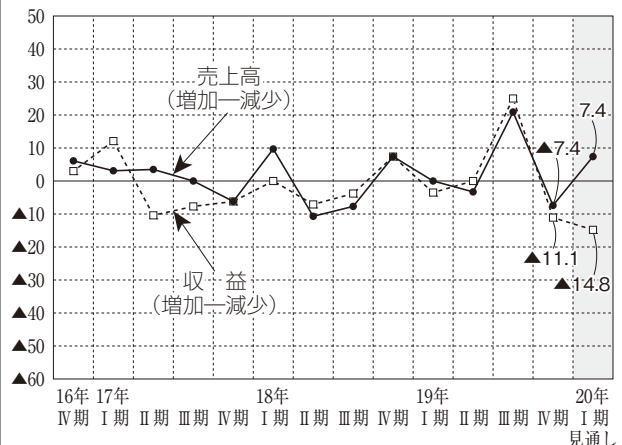
**【今期】** 所定外労働時間 BSI は、前期比25.4ポイント低下の▲3.7となった。また、雇用者数の現状 BSI は、同16.2ポイント低下の▲70.4となった。雇用者数を「過剰」と回答した企業はなく、7割超の会社が雇用者数を「不足」と回答している。

**【来期】** 所定外労働時間 BSI は、今期比11.1ポイント上昇の+7.4となる見通しである。

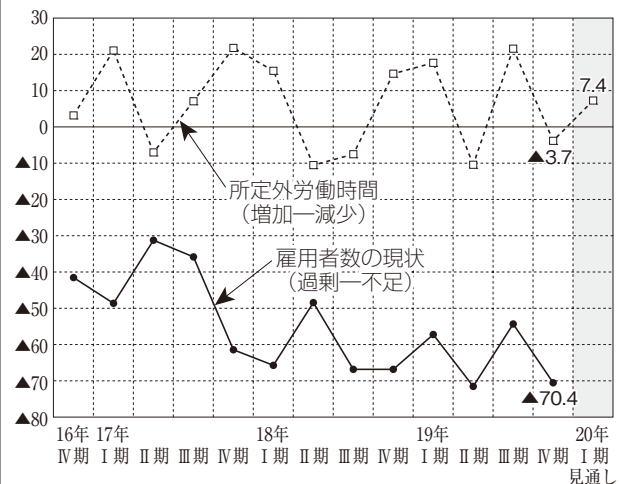
業況判断 ( B S I )



売上高と収益 ( B S I )



所定外労働時間と雇用者数の現状 ( B S I )





### ◎資金繰りと金融機関からの借り入れ

【今期】資金繰りBSIは、前期比6.3ポイント低下の+11.1と悪化した。また、借り入れBSIは、同20.6ポイント低下の▲11.5となった。

【来期】資金繰りBSIは、今期比18.5ポイント低下の▲7.4となる見通しである。また、借り入れBSIは、同11.5ポイント上昇の±0.0となる見通し。

### ◎設備投資実施割合

【今期】実施企業の割合は、前期比14.8ポイント減の18.5%となった。

実施企業の投資目的をみると、「補修・更新」が80.0%と最も多くなっている。

【来期】実施予定企業の割合は、今期比7.4ポイント低下の11.1%となる見通しである。

実施予定企業の投資目的をみると、「補修・更新」が66.7%と最も多く、次いで「生産能力の拡大・売上増加」が33.3%となっている。

### ◎経営上の問題点

経営上の問題点については、「人手不足」が36.0%と最も多く、次いで「売上不振」、「人材不足」がともに16.0%、「販売受注単価低下」、「人件費増」、「競争激化」がそれぞれ8.0%となった。

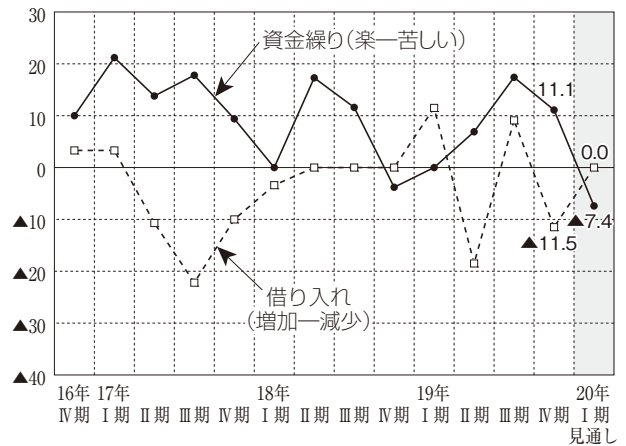
「人手不足」と「人材不足」の合計は52.0%と人手や人材の不足を経営上の問題点と捉える企業は全体の半数で、前回調査時（50.0%）と同程度であった。前述の雇用者数の現状BSIは▲70.4であり、人手不足・人材不足の状況が続いている。

### ◎足元の公共工事・住宅投資の動向

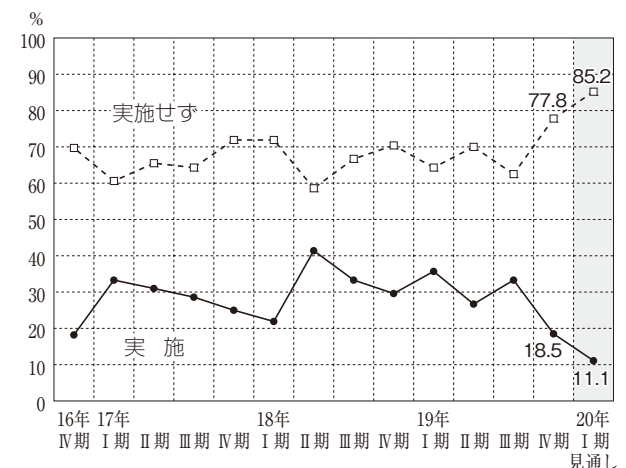
公共工事の動向について、西日本建設業保証の2019年7月から9月までの保証取扱動向（請負金額）をみると、前年同期比23.1%増となった。2019年10月単月では、前年同月比20.0%増であった。

また、住宅投資の動向について、2019年7月から9月までの新設住宅着工戸数をみると、前年同期比13.7%減の1,855戸となった。2019年10月単月の着工戸数は、前年同月比12.8%増の731戸であった。

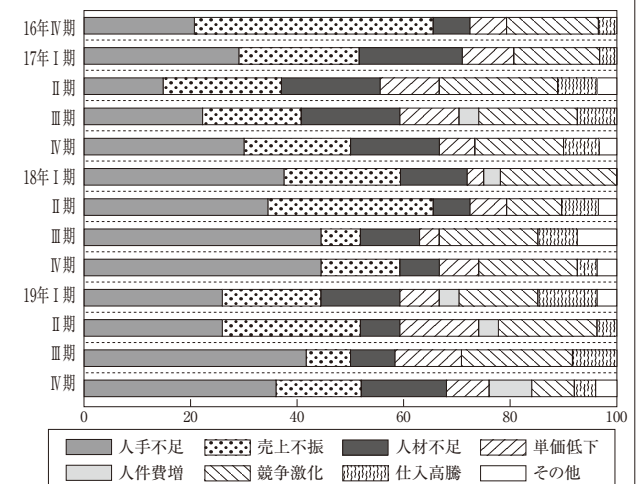
資金繰りと金融機関からの借り入れ（BSI）



設備投資実施割合



経営上の問題点 (%)



## 2期ぶりに改善

### ◎業況判断

**【今期】** 業況判断 BSI は、前期比26.0ポイント上昇の▲12.9と2期ぶりの改善となった。前回調査における2019年Ⅳ期の見通し（▲13.9）と比較すると、1.0ポイントの上方修正となっている。

BSIの内訳をみると、「よくなった」と回答した企業は前期比17.9ポイント増の17.9%、「悪くなった」は同8.1ポイント減の30.8%、「変わらない」は同9.8ポイント減の51.3%と、「よくなった」と回答する企業が増加、「悪くなった」「変わらない」が減少した。

サービス業のうち観光関連の16社をみると、「よくなった」と回答した企業は前期比31.3ポイント増の31.3%、「悪くなった」と回答した企業は同6.2ポイント減の31.3%となった。観光関連以外（23社）では、「よくなった」と回答した企業は前期比8.7ポイント増の8.7%、「悪くなった」と回答した企業が30.4%となった。ラグビーワールドカップ大分開催や天候安定などにより、観光関連を中心に改善となった。

**【来期】** 業況判断 BSI は、今期比8.2ポイント低下の▲21.1と悪化する見通しである。

内訳をみると、「よくなる」と回答した企業は今期比7.4ポイント減の10.5%、「悪くなる」は同0.8ポイント増の31.6%、「変わらない」は同6.6ポイント増の57.9%となる見通しである。

### ◎売上高と収益

**【今期】** 売上高 BSI は前期比26.4ポイント上昇の▲18.0、収益 BSI は同18.2ポイント上昇の▲17.9と、ともに2期ぶりの改善となった。

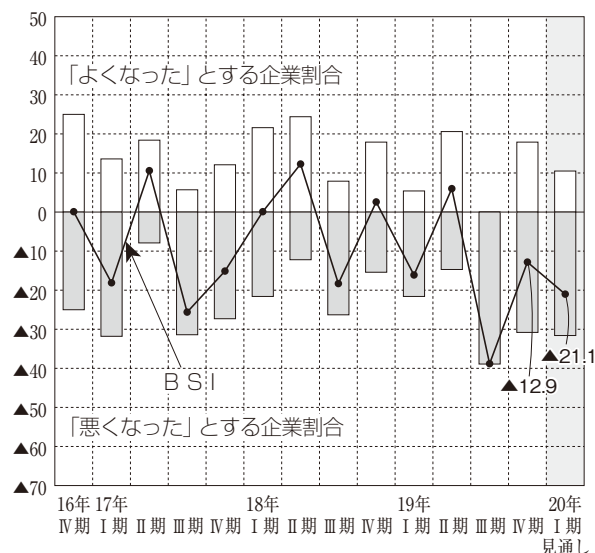
**【来期】** 来期の売上高 BSI は今期比10.2ポイント低下の▲28.2、収益 BSI は同0.1ポイント低下の▲18.0となる見通しである。

### ◎所定外労働時間と雇用者数の現状

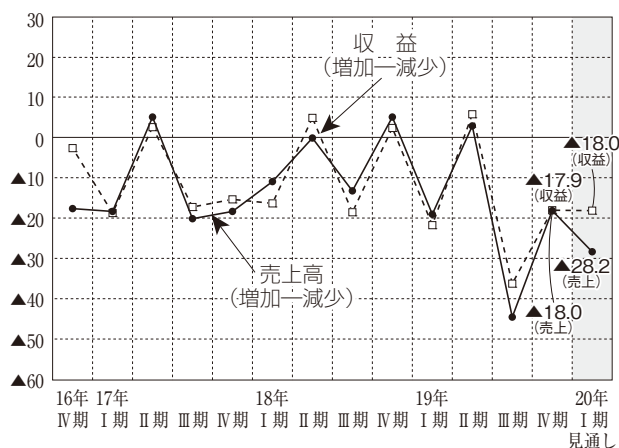
**【今期】** 所定外労働時間 BSI は、前期比20.2ポイント上昇の+2.6となった。また、雇用者数の現状 BSI は、同3.9ポイント上昇の▲46.1となった。

**【来期】** 所定外労働時間 BSI は、今期比12.9ポイント低下の▲10.3となる見通しである。

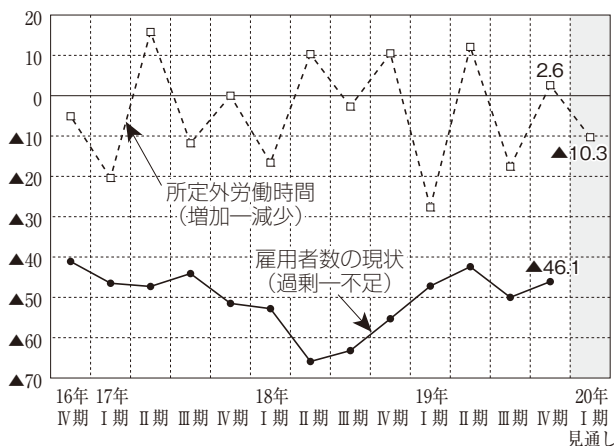
業況判断（BSI）



売上高と収益（BSI）



所定外労働時間と雇用者数の現状（BSI）



### ◎資金繰りと金融機関からの借り入れ

**【今期】** 資金繰り BSI は、前期比17.0ポイント上昇の7.9と改善した。借り入れ BSI は同5.9ポイント上昇の▲10.8となった。

**【来期】** 資金繰り BSI は、今期比10.5ポイント低下の▲2.6、借り入れ BSI は同5.4ポイント低下の▲16.2となる見通しである。

### ◎設備投資実施割合

**【今期】** 実施企業の割合は、前期比1.0ポイント減の46.2%であった。

投資目的別にみると、「補修・更新」が52.9%と最も多く、次いで「生産能力の拡大・売上増加」が35.3%となっている。

**【来期】** 実施予定企業の割合は、今期と同水準となる見通しである。

投資目的別にみると、「補修・更新」が76.5%と最も多く、次いで「生産能力の拡大・売上増加」「合理化・省力化」がともに11.8%となっている。

### ◎経営上の問題点

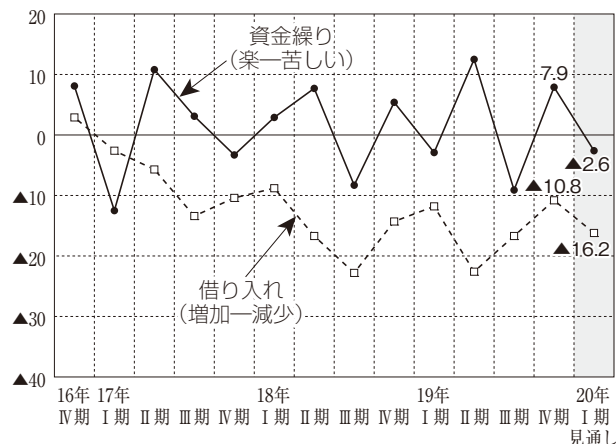
経営上の問題点については「売上不振」が27.8%と最も多かった。次いで「人材不足」が25.0%、「人手不足」が19.4%となった。「人手不足」「人材不足」合わせて44.4%と、前回調査から5.6ポイント低下となった。前回調査に比べ改善しているが、未だ高い水準で推移しており、多くの企業で人手不足・人材不足が問題となっていることがうかがえる。

### ◎足元の県内宿泊客の動向

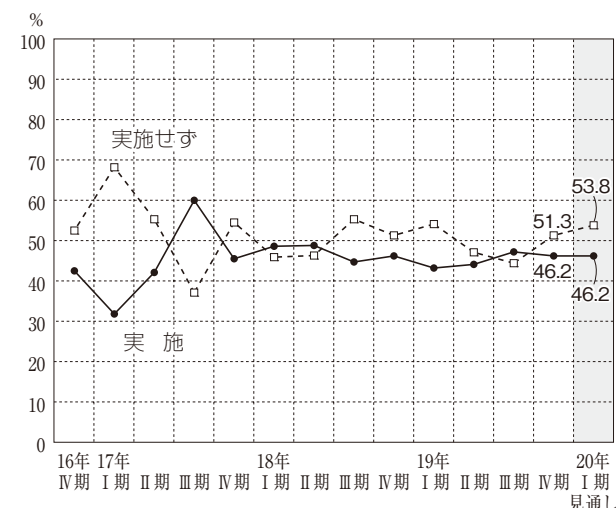
大分県の観光統計調査の2019年7～9月期の宿泊客数をみると、前年同期比4.5%減となった。内訳をみると、国内客が同0.9%減、外国人客が同26.0%減となっている。外国人宿泊客数の6割超を占めていた韓国人宿泊客が大幅に減少しており、全体でも2期連続でマイナスとなった。

なお、2019年10月単月では、宿泊客数は前年同月比2.3%増となった。内訳をみると、国内客が同4.5%増、外国人客が同7.0%減となっている。外国人客の減少に関しては、ラグビーワールドカップによる欧米豪の増加分を、日韓関係悪化による韓国人訪日客の減少分が大幅に上回ったことが主な原因と考えられる。韓国人宿泊客数は前年同月比87.0%減、外国人宿泊客数に占める割合は1割を切った。

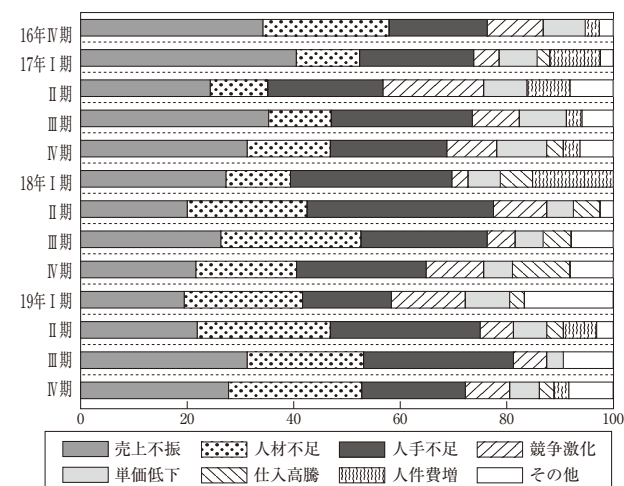
資金繰りと金融機関からの借り入れ（BSI）



設備投資実施割合



経営上の問題点 (%)



## BSIとは

BSIとは“Business Survey Index”の略

企業経営者の業況に関する判断や景気見通しを“よくなる・よくなった”、“変わらない”、“悪くなる・悪くなった”という3つの形式で回答を求め、これを数値であらわしたものである。

BSIは次の数式で求められる。

①[よくなる]+[変わらない]+[悪くなる]=100%とする

②[変わらない]の回答分を除く

③  $BSI = [よくなる] - [悪くなる]$

BSIが前期を上回れば景気は改善、前期を下回れば悪化という見方をする。

## 調査の概要

当調査は、大銀経済経営研究所、大分信用金庫、大分県産業創造機構の三者合同によるアンケート調査である。

◎調査時点 2019年11月20日

◎調査の内容

- ・自社の景況の実績と見通し
- ・売上高と収益の実績と見通し
- ・設備投資実施割合
- ・経営上の問題点など

◎調査対象

- ・県内に本社または出先事業所を有する企業460社

◎回答企業数 215社

・回答率 46.7%

・規模別割合

資本金1千万円未満・個人	8.8%
資本金1千万円～1億円未満	64.7%
資本金1億円以上	15.8%
無回答	10.7%